

# 義務教育通信（仮称）

通信の正式名称は、校名が決まり次第決定をいたします！

## 第1号

江府町義務教育学校設置準備委員会通信

江府町教育委員会事務局

## 令和4年度の開校に向けて！

江府小学校、江府中学校を一つにし、新たに義務教育学校（9年間の教育を一貫して行う新たな学校の種類）を令和4年度に開校するにあたり、義務教育学校設置準備委員会が設置されました。この通信では、準備委員会で決まったことなどを町民、保護者の皆様にお知らせしていきます。よろしくお願いいたします。

### 準備委員会のメンバーの紹介

氏名（敬称略）	所属
手島征夫 委員長	地域代表・学識経験者
谷田孝之 副委員長	地域代表
井上廉女	地域代表
中田 尚	地域代表
河上定弘	保護者代表（保育園）
宮本佑介	保護者代表（保育園）
川上剛司	保護者代表（小学校）
稲田真一	保護者代表（小学校）
山川達矢	保護者代表（中学校）
北村 愛	保護者代表（中学校）
梅林明宏	子供の国保育園園長
瀬尾美佐子	江府小学校校長
竹内貴美	江府中学校校長

以上の皆様にお世話になります。

### 第1回・第2回準備委員会より

委員会での主な報告、説明、協議内容は以下の通りです。

- ①これまでの経過と今後のスケジュール確認
- ②校名・校舎名の募集と選考方法について
- ③ブロック制についての協議と決定について

今回の通信では決定したブロック制について報告をさせていただきたいと思います。



## ブロック制の決定について

義務教育学校では、9年間通う特性を生かし、それぞれ校舎に通う区切りを6-3に限定せず、教育効果をあげるため、柔軟に設定することができます。江府町の場合、どのようなブロック制がよいのかを検討しました。2回にわたる協議の結果、**5・4制に決まりました**。以下はメリット・デメリット、委員さんの主な意見です。

### メリット

- 6年生の教科担任制（教科担当の先生が授業）が容易。
- 児童の心身の発達への早期化への対応可。
- 一足早く中学校校舎に行くことでの、進路意識の向上。
- 中央教育審議会でも小学校高学年の教科担任制の推進がある。
- 中学校校舎の生徒数減少の緩和。

### デメリット

- △保護者も教職員も経験したことない→不安・心配。
- △6年生児童のリーダーシップの育成は？
- △放課後水泳・陸上・音楽会の練習の校舎間の移動方法は？
- △小学校児童の減少。

### 委員さんの主な意見と協議内容

- ◇小学校校舎で6年生を経験しない現4年生のフォローをしながら5・4制にしてはどうか。
- ◇教員が移動できる、授業交流できるのが義務教育のよさ。発達段階に合わせるという話もあるが、それにとらわれすぎてもどうか。
- ◇教科担任制を考えると5・4制。
- ◇5・4制がよいが、校舎間の移動手段の確保をしっかりと。現小4とその保護者へのフォローも大切に。

## 7月13日保護者説明会

第1回・第2回の準備委員会を経て、5・4制の決定についてなど保護者の皆様にお伝えしました。現小学4年生のフォロー体制についてなどのご意見をいただき、①卒業式に代わる「巣立ちの式」をしてはどうか、②5年生段階でリーダー性を経験する場面を持たせる、などを確認しました。